

1 今年度の取組の成果と課題

(1) 学習指導

- ・ チャイム始業についてはほぼ全教員が始業時間前に教室に入り指導を行っている。生徒のチャイム着席も定着し、落ち着いた環境で授業を受けている。
- ・ 学年毎に朝学習の年間計画を作成し、8時30分開始5分間を設定し、通年で実施した。また、各種講習については、進路指導部を中心に教科、学年と連携を図り効果的に取り組んだ。
- ・ 教員相互の授業参観は、授業参観週間を年間2回設定し、延べ107名が実施した。今後は、研究授業や研究授業後の研究協議等を活用するなど、授業改善に向けた取組を工夫する。
- ・ 各教科・科目のルーブリックを検討し、教科主任会を中心に、本校スクール・ポリシーに基づく教科の観点別評価を実施した。定期考査の共通問題や記述式問題の工夫により、生徒の基礎学力の向上や思考力の育成を目指した。評価結果に対する生徒、保護者からの質問や問合せ等は少数であった。
- ・ 同窓会の協力を得て校内寺子屋を継続させている。講師には本校卒業生を招き、生徒の基礎学力の定着に向けて取り組んだ。また、図書室の利用者数が昨年度7664名から8668名と1000名ほど増加した。引き続き自主的な利用者が増えるような仕掛けが必要である。
- ・ 生徒による授業評価については、各学期に1回実施することを基本として、実施時期や内容については教科や教員の判断に委ねた。Forms等デジタル技術を活用し、結果を効果的に分析し授業改善に反映させていくことが今後の課題である。
- ・ GTECを全学年で実施し、結果を日常の授業に活用することができた。今後も、GTECをはじめ、外部試験の活用など、生徒の学力を数値化しフィードバックしながら学力向上に取り組む。

(2) 進路指導

- ・ 四年制大学への進学率が75%と目標を上回った。早慶上理4名、GMARCH6名、成成明学国武14名、日東駒専65名、大東亜帝国95名の合格となった。今後は、目標とする大学を1つ上げて取り組ませる指導の工夫が必要である。
- ・ 大学入学共通テストの受験者数は214名と昨年度の177名から増加した。次年度に向けては、推薦型選抜を利用する生徒が増えることに対する準備・対策も必要である。教員向けには進路部主導の分析会を充実させたが、上級学校の情報や模試の結果の共有について、多くの教員が情報共有する機会や生徒への還元方法をより一層充実させていくことが必要である。
- ・ 総合的な探究の時間におけるキャリア教育は外部人材の指導力を活用し、1年次から自分の進路目標について意識させた。今後も本校のキャリア教育の内容について教職員間での共通理解に努めるとともに、内容及び実施方法について検討していく。
- ・ 進路指導部が主導し、年間で6回の模擬試験終了後に結果分析会を実施した。分析会後には、各教科会で生徒の現状と課題を整理するとともに今後の対策を検討した。さらに、教科会での検討結果を集約した「模試分析まとめ」を学年ごとに作成し、生徒の学力状況や進路志望状況を教職員全体で共有し、生徒の希望進路実現を目指した。2年対象3年ゼロ学期講習、中堅私大突破講習や入試直前講習については661名の生徒が受講し、進路意識の高揚につなげたが、次年度に向けてより工夫した取組を推進していく必要がある。また、3年3学期における受験サポート指導を充実、定着させ、学校での学習サポート体制を整えていくことが課題である。
- ・ 講習は年間を通して97講座を開講し、延べ1016名の生徒が参加した。今後は長期休業中の参加者数の増加に向けた取組を推進していく必要がある。
- ・ 今年度よりベネッセのClassiを導入した。学習サポート、教員と生徒の連絡ツールとして今後

も継続していく。

- ・ 部活動単位での学習習慣については部活動でばらつきがあった。部活動毎に学習状況をまとめたT-1の結果発表を2回実施し、生徒の学習意欲のさらなる向上に努めたが、今後は学習意欲の向上につなげる方法の工夫・改善が必要である。

(3) 生活指導

- ・ 日常の生活指導及び生徒への積極的な声掛けを継続して行い、安全安心な学習環境を構築した。
- ・ 身だしなみに関する指導を継続的・計画的に行った。定期的な指導において指導対象者が若干数あった。
- ・ 授業規律及び携帯電話使用に関するマナー指導を、生活指導部から全職員に発信し、全体で取り組んだ。チャイム開始や、授業中の携帯電話使用禁止など、生徒に定着してきている。
- ・ 挨拶の励行は今後も継続していく。校内美化は美化委員会を中心に清掃を実施した。生徒による自主的な清掃、主事の協力等もあり校内美化は保たれている。校舎老朽化、トイレ臭の問題などによる校内美化の評価の低下もみられる。
- ・ 帰属意識の定着に関しては全校集会、学年集会等を大切にして今後も意識の定着に努める。
- ・ 自転車のルール、マナー教育は警察と連携して継続した指導を行った。登下校中の自転車事故は0件であるが、近隣からの苦情も若干あったことが課題である。
- ・ いじめ調査アンケートを年3回実施し、生徒の状況を適切に把握した。学級担任を中心にスクールカウンセラーの協力を得ながら、対応が必要な生徒を早期に発見し、迅速に対応した。
- ・ 避難訓練を現在まで2回実施した。9月には、1年生で防災ワークショップを実施し、「自助力」「共助力」について講話や実践を行った。

(4) 健康指導

- ・ 保健だよりや保健委員会を通じて、予防接種や手洗い、うがいの励行、教室の換気などの予防対策を啓発した。今後も継続して啓発を行い、日頃から生徒自身が自己の体調管理や感染症等の予防を実践する力をより一層身に付けさせていく。
- ・ スクールカウンセラーによる全員面接や実施し、生徒理解及びいじめの未然防止に役立てた。スクールカウンセラーによる全員面接は早期に実施できたが、今後も可能な限り入学後すぐの実施の検討が必要である。
- ・ 養護教諭を中心に、アレルギーに関わる生徒情報を共有し、教員対象研修を実施した。
- ・ 家庭と連携協力し歯の健康指導を充実させた。
- ・ 学校保健委員会を開催し各医療機関から助言を受け、教員対象の防止研修会を開催するとともに感染症や熱中症予防指導を徹底した。
- ・ 部活動の生徒を中心に、7月に熱中症予防講習会を実施し、自己の健康管理に意識付けを行った。

(5) 部活動・特別活動

- ・ 部活動加入率は、運動系 59%、文化系 27%の計 86%となった。
- ・ 各部活動内での自律的な学習意欲及び規範意識の向上を図るために、「けじめと切替」を重視させた。家庭学習時間を確保するために、部活動等最終下校時刻を厳守させたが、学習時間の確保までには至っていない。今後の課題である。
- ・ 生徒会・吹奏楽部・ダンス部による特別支援学校との交流等を継続・推進することが出来た。また、バトントワール部、吹奏楽部、ダンス部が地域のイベントに参加した。
- ・ 硬式野球部と女子バレーボール部の生徒が、毎日、自主的に校内の落ち葉掃きなど、清掃活動を行った。

(6) 募集・広報活動

- ・ 入学者選抜応募倍率は、推薦で2.97倍、学力検査で1.08倍となった。
- ・ 学校見学会を7月に2回、8月に1回の計3回実施した。学校見学会に945名、学校説明会に738名の参加者があった。また、外部説明会へは4か所に参加し、募集対策を行った。今後は、校舎改築の影響で募集倍率の低下が心配されるが、募集対策を一層充実していく必要がある。
- ・ 総務部を中心に、ホームページの情報更新を198回、SNSによる情報発信を215回行った。次年度は、発信する内容なども精査しながら、本校の魅力を継続的に発信していく必要がある。
- ・ 中学生向け「都立高校入試対策講座」を12月と1月の2回実施した。372名が参加し、受講生に好評であった。高校選択に迷っている中学生に対して最後の一押しをしていくためにも次年度も継続していく。
- ・ 地域の夏祭りや板橋特別支援学校との交流に参加し、高島特別支援学校の生徒の作品を校舎内に展示した。また、文化祭来場者は2183名となり、本校の生徒の魅力を発信できた。

(7) 学校経営・組織体制

- ・ 企画調整会議で各分掌、学年の意見を吸い上げるとともに情報を共有し、諸課題に迅速に対応した。主幹教諭、分掌主任を中心とした分掌等経営を実践し、自律的な学校改革を進めた。企画調整会議は概ねスムーズに進行したが、報告事項に止まらず学校運営の根幹に関わるテーマを題材とした議論を今後も深めていく。
- ・ 職員会議の資料を、TAIMSを活用してデータ送付するなど、会議の効率化は定着してきた。教職員の在校時間管理については、一定の教職員への業務の偏りがみられた。全教職員へのより一層の徹底が次年度の課題である。
- ・ 校内の情報セキュリティ環境の整備についてはICTリーダー主導のもと整備を行った。メールを活用した情報の共有化については、主に各分掌主任から全体に発信した。
- ・ 各分掌、学年の組織目標スケジュール管理を適切に行い、学校運営連絡会で学期ごとに検証し、修正、改善につなげた。
- ・ 経営企画室では施設修繕を適切に行い、計画的に清掃や樹木剪定を行うことで、安全・安心な環境整備に取り組むとともに、予算編成指針に基づき次年度予算を編成するなど、学校経営計画の実現を目指した。
- ・ 情報セキュリティの徹底を図った。個人情報の取り扱いについては今後も緊張感をもって教職員全体で取り組む必要がある。
- ・ 窓口や電話対応では丁寧に対応し、苦情等にも速やかに内容を共有し対応した。TAIMS 端末を活用し、予定を情報共有することにより効率的に事務を執行し、休暇を取得しやすい働きやすい職場づくりに取り組んだ。
- ・ 経営企画室との連携については日々の打ち合わせ、口頭での連絡、メール等を使用して緊密に連携を図った。

2 次年度以降の課題と対応策

- ・ 学習指導では、より生徒の基礎学力の定着と、進路実現に向けた指導の充実を図る必要がある。教員一人一人の授業改善の意識を高めるとともに、組織的・計画的に学力向上を図っていく。
- ・ 総合型選抜等を見据え、キャリア教育や、探究的な学習の工夫について、検討していく必要がある。探究学習委員会を設置し、将来のキャリア教育を見据えた検討を行っていく。
- ・ 生徒の規範意識の醸成、基本的な生活習慣の確立に向け、生活指導の改善・工夫を行っていく。特に、生活指導の方法を見直すとともに、全教職員が共通認識をもって共通した指導を組織的に行っていく体制を整える。

- けがをする生徒が増加傾向である。必要な栄養について伝えるとともに、生徒が自分の健康に意識を向け、自分の健康を自分で構築していくような、意識の向上を目指した取組を推進していく。
- 委員会活動や部活動を中心とした活動により、生徒の自己有用感を高める取り組みをより一層充実させる。特別支援学校との協働的な活動を取り入れ、相互理解を図りながら、社会の一員としての自覚を持たせる取組を推進する。
- 校舎改築に伴い、本校を希望する生徒数の減少が危惧される。本校の魅力、本校の生徒の魅力を、効果的にPRする取組を工夫する。
- デジタル技術を活用した校務改善を推進する。また、様々なデジタルツールを効果的に活用できるよう、活用方法等の見直しを行うとともに、保護者への通知などにも活用していくよう検討する。